

「これまでは横断幕とネオン看板だけでどうしてもアイキャッチが弱かったため、動きのある看板の検討を始めました。大型サイネージや液晶なども候補にありましたが、ポールビジョンのコストパフォーマンスの高さ、大きな文字での訴求力、既存のネオン装飾との一体感などを評価し、導入を決めました」。

こう語るのは(株)キャスブレン営業部の佐藤智央部長補佐。今年3月、同社が経営する《吉兆横浜西寺尾店》の側面最上部に、高さ2メートル、横幅11メートルのLED映像看板『ポールビジョン』を取り付けた。

この場所に設置したのは、交通量の多い付近の交差点から目につきやすいため。車を利用する地域の人達への訴求を狙った。「お昼の明るさの中でどれくらい目立つのか心配でしたが、遠くからでも奇麗に見えますし、存在感ができました。ここに吉兆があること、パチンコ店であることを地域の方たちに認識してもらえれば」と佐藤部長補佐。さらに同店では、交差点の信号にあわせてポールビジョンの表示映像を切り替える新しい映像の見せ方にも挑戦。具体的に、店舗を見通せる車線側の車

抜群の文字メッセージ力と アートな表現力で存在感アップ

コストパフォーマンスの高さと多彩な表現力を実現したLEDディスプレイ「ポールビジョン」。この度、横浜市内の有力チェーン・吉兆グループが導入した。

ポールビジョンとは？

表示ユニットを30~40cmの間隔に並べて、文字や映像をスクロールさせることで、ユニットの隙間に残像を発生させて、文字や映像をクリアに表示させる先進の映像看板。

交差点の信号と連動し効率的な告知を実現



青信号時／店舗前の通りを車が流れているときはネオンモードとなりイメージ映像を表示。



赤・黄信号時／車が停車する黄、赤信号時は、文字スクロールで店舗情報や機種情報などを告知。



導入店舗：《吉兆横浜西寺尾店》
横浜市神奈川区西寺尾1-17-1

が赤信号で停まると店舗情報や新台情報などの文字映像を流し、青信号で車が動いている時はネオンモードでのアートのなイメージ映像を映し出している。

この仕組みは(株)PDシステムが展開する「交差点劇場」という表示装置を活用したもので、交差点の信号にあわせて意図的に映像を切り替え、安全運転への配慮とともに、効果的な宣伝効果を図っている。

「吉兆全店では地域密着主義、お客様第一主義を営業方針に掲げています。接客にも力を入れていますので、まずは一度、来店してもらいたい、お店の良さを感じていただきたい。そのためには、地域の方々に良いところをアピールできるコミュニケーション看板は重要だと認識しています。ポールビジョンでうまくお店の存在感を引き立てていきたいと思っています」と佐藤部長補佐。

自店を知ってもらい、来店してもらおうその第一歩に、ポールビジョンが貢献する。



株式会社キャスブレン
佐藤智央営業部長補佐